



## 患者図書館見学記

会誌編集部

### I. はじめに

2008年7月11日、編集部員4人で関東圏の患者図書館のうちの5館を訪問し見学させていただいた。その見学内容について、各館の基本情報と各館へ質問した内容への回答を誌面にて報告する。

なお、掲載順は見学した館の順番となっている。

基本情報中の「型式」は、日本病院ライブラリー協会の「患者図書室の形態」を使用した<sup>1)</sup>。

また、患者図書館関係の参考情報リストを後半に掲載する。今後、患者図書館に興味を持たれた方の役に立てば幸いである。

### II. 昭和大学病院

#### 1. 基本情報

施設名	昭和大学病院		
患者図書室名	患者図書室「健康の森」—みんなの医療情報AからZまで—		
所在地	東京都品川区旗の台1-5-8 昭和大学病院入院棟 地下1階		
ウェブサイト	あり	<a href="http://hosp.showa-u.ac.jp/SUH/PDF/library.pdf">http://hosp.showa-u.ac.jp/SUH/PDF/library.pdf</a>	
型式	独立型		
開館時間	月～金 10:30～13:00 14:00～16:30 / 土・日・祝 休み		
スタッフ	ボランティア 常時1人(シフト制)		
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人医療の質に関する研究会が展開した第1号の患者図書館。</li> <li>・入院棟の入口にあり、立地条件に恵まれている。</li> <li>・“病院らしくない”をコンセプトに、建築デザイナーによる重厚なレイアウトが目を引く。</li> <li>・月に1度開催する「患者図書室委員会」には大学図書館事務長にも参加してもらい、運営についての協議を行っている。</li> </ul>		
一日の利用者	15～20人		
PRについて	病棟や外来にポスターを貼付して利用を呼びかけている。「入院のご案内」パンフレットにも紹介されている。		

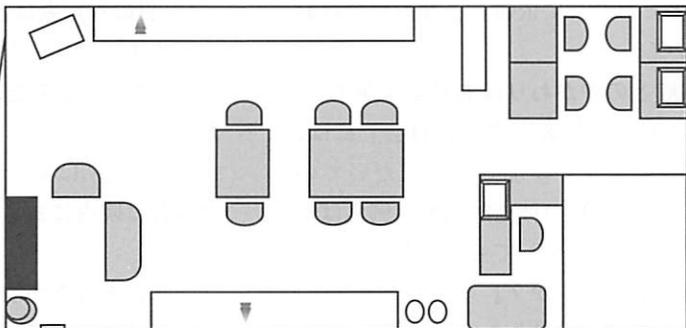
資料種別	一般医学書 約1,000冊	医学雑誌 約200冊	DVD 約20本	パンフレット 多数
貸出可否	入院患者○	入院患者○	図書室内で閲覧	配布
分類方法	米国PLANETREEグループ患者用図書分類			
選書基準	当初5年間は、NPO法人医療の質に関する研究会で選書された本が設置される。寄贈本についても、NPO法人医療の質に関する研究会に確認をとってから配架している。			

インターネット	端末2台	利用目的は医療情報の検索に限定している。
複写機	あり	コイン式 10円/枚
プリンター	なし	
視聴覚設備	あり	

感染対策	あり	入口に手指消毒用液体を設置している。
------	----	--------------------

レイアウト

- ・ 広さは約70㎡。閲覧テーブルの他にソファや暖炉を配置し、温かい雰囲気演出している。照明もソファの上は暖色系の蛍光灯を使うなど細かい工夫がされていた。分類ごとの見出しには親しみやすいイラストが描かれ、資料を探しやすく、手に取りやすい本棚だった。
- ・ 返却ボックスが2段にわかれており、上段が「参考になった資料」、下段が「参考にならなかった資料」の2つに分別して返してもらっている。いずれ統計をとって選書の参考にしたいとのこと。





医療相談	総合相談センターを紹介する。
その他	利用者からの質問事項は全て業務日誌に記録している。

## 2. 質問と回答

「NPO法人 医療の質に関する研究会（以下質研）のプロジェクトに参加された経緯を教えてください。」

患者図書室がなかったこと、入口すぐの部屋が空いていたことなどの条件がそろい、公募に応募した。

「スタッフは何人ですか？所属はどちらですか？」

常時1人である。ボランティアでシフトを組んでいる。どうしてもシフトに穴があいてしまう場合は、病院管理課の者が担当する。ボランティアの募集は病院ホームページへの掲載や、ボランティアセンターに依頼し、交通費のみお支払いしている。

「大学図書館とのかかわりがありますか？」

毎月開催される「患者図書室委員会」には、大学図書館事務長にも参加していただいている。あと、図書館業務の技術的指導（例えばラベルを貼る位置など）をしてもらった。

「選書方針はありますか？」

当初5年間は質研で選書した本が設置される。質研の選書委員会には大学の図書館員が参加している。

「資料の装備について工夫されている点を教えてください。」

書架の見出しに分類AからZのイラストを貼付し、見やすいようにしている。

「資料配架上の工夫点を教えてください。」

一部の本は、表紙が見えるように横向きに置いたりしている。「こんな本もありますよ」という紹介になるし、手に取りやすいと思う。

「レイアウトや設備配置上の工夫点を教えてください。」

建築デザイナーによる「病院らしくない日常生活風景」が作られている。ソファや暖炉を設置して和める空間に仕上がっている。

「インターネットは閲覧できますか？利用に関して制限はありますか？」

できる。「医療情報収集のため」としているが、特にフィルタはかけていない。利用履歴は

管理している。

「ブラウザを立ち上げると同時に開く「デジタルAZ君」について教えてください。」

医療系ページを分類して、評価とコメントを掲載したリンク集である。下記URLからアクセスできる。

<http://kanjatoshoshitsu.com/contents/preview/globalnavi1203043984031.html>

「利用者に対してどのようにPRしていますか？」

病棟や外来にポスターを貼付して利用を呼びかけている。「入院のご案内」パンフレットにも紹介されている。

「一日の利用者はどのくらいですか？」

平均すると15～20人程度。

「レファレンス上の問題点があれば教えてください。」

書籍の説明はするが、診療に関する質問があった場合は院内にある総合相談センターを紹介している。

ここにある本が欲しいという方には書名をメモしてお渡ししている。

どのような質問があったかは業務日誌に記録している。

「患者図書館を設置する前と後とで何が変わりましたか？良い点と悪い点を教えてください。」

悪い点はない。空き部屋を有効に活用できたし、患者さんの談話室的な存在にもなれた。

## 3. 見学者感想

NPO法人 医療の質に関する研究会が作成した第1号の患者図書館である。デザイナーによる設計や家具の配置はとても重厚であった。中でもソファや暖炉が設置してあるリラクスペースは、暖色系の蛍光灯を使うなど細かい工夫がなされていた。本棚も見やすく整備され、患者図書館に必要な設備は全て整っていると感じた。外部機関が管理・運営を行う新しい形の患者図書館である。

Ⅲ. NTT東日本関東病院

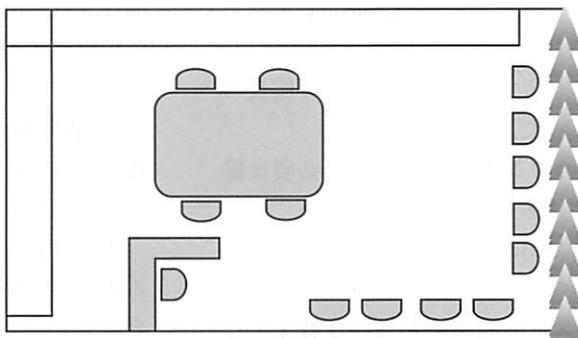
1. 基本情報

施設名	NTT東日本関東病院		
患者図書室名	患者様図書コーナー		
所在地	東京都品川区東五反田5-9-22		
ウェブサイト	あり	http://www.ntt-east.co.jp/kmc/oshirase/tosho.html	
型式	独立型		
開館時間	10:00~15:00 (土・日・祝日は閉館)		
スタッフ	1人 (ボランティアスタッフ11人で交代制)		
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口に近く、オープンスペースであり、利用しやすいこと。</li> <li>・外来1階のお薬カウンター前という患者の動線内にあるスペースであること。</li> </ul>		

資料種別	一般医学書 1,200冊	關病記 なし(原則としておかない)	視聴覚資料 なし	パンフレット 病院のものが2種類
貸出可否	×	×	×	配布
分類方法	不明			
選書基準	図書館員は選書時にかかわる。ボランティア委員会を経て購入する。 民間療法類はおかない。			

インターネット	病院の2階にあるインターネットカフェを利用してもらう (8~17時)。
複写機	病院の2階にあるコンビニのコピー機を利用してもらう。患者様図書コーナーは1階にあり、コピー時は書籍持ち出しの許可を得てもらう。
プリンター	インターネットカフェの利用基準に従ってもらう。
視聴覚設備	1台あったが、スペースの都合で現在は利用できない。

感染対策	年1回、病院内をすべて一斉にガス噴霧し害虫駆除をしている。 図書にはできるだけ抗菌カバーをかけるようボランティアへ指導した。
------	---

レイアウト	<p>・低い書架を選んだ。</p> 
-------	--

		
<p>医療相談</p>	<p>ボランティアから看護師へ連絡し、看護師の判断で医師へ相談するよう回答している。院内に相談コーナーがある（もしもしコーナー、医療連携室）。</p>	
<p>その他</p>	<p>開設時期は、2003年11月。 現在は、患者様図書コーナーを外来1階、薬カウンター側へ移設した。</p>	

2. 質問と回答

『患者様図書コーナーに図書館担当者がかわっていますか？』

現在11人いるボランティアの中にはOB看護師もいて、交代制で毎日ほぼ1人が在席している。

図書館員は選書・購入の際にかかわる。

導入初期には、ボランティアスタッフの指導を行った。その後も質問には随時対処している。

『患者図書館はどのように作られたのでしょうか？』

ボランティア委員会で患者図書館が必要だとの意見が出たことから。患者の知りたいという要求には応えるべきではないか、という院長の鶴の一声で決まった。

『特に管理用カウンタースペースに必要な備品や便利グッズはありますか？』

事務用品以外であればバスの時刻表が好評である。

『レファレンス上の問題点があれば教えてください。』

ボランティアが対応に困った事例にあたったときは、PHSで看護師が図書館に連絡がある。

治療方針などへの質問には看護師が対応し、看護師の判断により医師へ相談するよう回答する。

『患者図書館の効果的なPR方法を教えてください。』

現在は目立つところにあるので、ことさらPRしなくても使ってもらえている。

『病院内の組織の一部として患者様図書コーナーは位置づけられていますか？あるいは患者図書サービスに関する委員会がありますか？』

ボランティア委員会に位置づけられている。

『ボランティアスタッフとやっていくうえで大切なことは何でしょうか？』

コミュニケーションをとるということに尽きると思う。月1回ボランティアミーティングを開催し意見交換を行っている。

ボランティアスタッフは病院で採用をしている。

『図書館担当者として必要だと思った知識はどのようなことがありますか？』

幅広い病気の知識を持つことだと思った。

患者は必死で自分の病気について勉強しているので、安易な対応はいけないと思う。対応できないのなら最初からやらない方がよいとも思った。

『公共図書館との連携はされていますか？または検討中ですか？』

区立大田図書館からの申し入れがあり、小児科に雑誌を巡回閲覧したことがあるが、現在は行っていない。

### 3. 見学者感想

患者様図書コーナーを拜見する前に、病院図書館を見学した。

什器やレイアウトは利用者の利便性と図書館の機能性を考慮し、時にはオーダーメイドを、あるいは既製品にひと工夫加えてあった。掲示物は文字の種類や大きさに統一感を持たせているせいか、目立ちすぎることなく図書館の風景にうまくマッチしていた。ソフトもハードも立

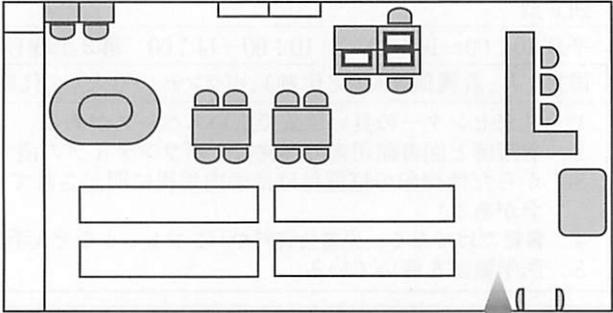
派な施設であると感じ、患者図書室の強力なバックボーンだと思った。

また院内には、「もしもしコーナー」や「医療相談室」といった相談窓口があり、インターネットを通じた情報収集にはインターネットカフェを設置してあった。患者図書館は病院全体のバランスを考えて患者サービスの一環として行われている。

## IV. 東京女子医科大学病院

### 1. 基本情報

施設名	東京女子医科大学病院						
患者図書室名	からだ情報館						
所在地	東京都新宿区河田町8-1						
ウェブサイト	あり	<a href="http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/patient_library/">http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/patient_library/</a>					
型式	独立型						
開館時間	平日 10:00~16:30 土 10:00~14:00 第3土曜日は休館						
スタッフ	司書1人、看護師3人(交代制)、ボランティア3人(交代制)が担当し、2人/日で運用。						
特長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来センターの良い位置で広いスペースがある。(約150㎡)</li> <li>2. 看護師と図書館司書で運営し、ボランティアの協力もある。</li> <li>3. からだ情報館の位置付けは学内規程に明記されている(からだ情報館運営委員会がある)。</li> <li>4. 書籍だけでなく、患者会資料やパンフレットなど入手しにくい資料が充実している。</li> <li>5. 医学雑誌を置いている。</li> </ol>						
資料種別	一般医学書 約1,200冊	闘病記 約40冊	一般書 約80冊	ビデオ 約270本	DVD 枚数不明	パンフレット 約250種類	患者会資料 多数
貸出可否	×	×	×	×	×	配付	配付
分類方法	NLMCを改良し、大項目のみ採用。診療科の概念も含んだものになっている。NDC分類も使用。看護師と相談して、分類の体系を決定した。ラベルには日本語で分類内容を記載。						
選書基準	<p>コンセプト： 単なる時間つぶしの場所ではなく情報収集の場を患者に提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭では購入しにくい書籍を収集する。</li> <li>2. 当病院に来院してはじめて入手できる医療情報を収集する。当院スタッフ作成の患者様向けパンフレット、書籍を収集する。</li> <li>3. 単なる読み物は収集しない。</li> <li>4. 患者向けのビデオ(当院医療スタッフ講演物)を収集する。</li> </ol> <p>選書方針：  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当病院の治療・診断方針に沿わないものは選書しない。</li> <li>2. 一つの治療方法のみに偏った資料は選書しない。</li> <li>3. 常に最新の資料を選択する(過去5年以内の資料を中心に)。</li> <li>4. 担当医の治療方針によるビデオ類を積極的に受け入れる。</li> </ol> </p>						

インターネット	端末 4 台	お役立ちホームページとして有用なサイトを分類別にグループ化し、サイト紹介画面を作成。 原則として、電子メール禁止。医療情報以外利用禁止。
複写機	あり	10円/枚 セルフサービス コイン式
プリンター	あり	10円/枚 プリント課金システム
視聴覚設備	あり	ビデオブース 2 個所 (DVDはPC端末を使用)
感染対策	なし	特にしていない。開設時に除菌BOXを試用し、感染科の医師に意見を求め、検討はした。 備品汚れの掃除に滅菌用シートを使うことはある。
レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすでの利用に配慮。カウンターや書架などの什器は低く、通路は広くしてある。ゆったりと落ち着いた雰囲気にするため、できるだけ木製什器（机・いす・書架）を採用した。</li> <li>・ガラス張りの部屋のため、ロビーからの目線を遮るよう、ガラスにポスターを設置するなどの工夫をした。</li> <li>・無断持出防止装置（BDS）を設置。</li> <li>・部屋のコーナーに植木、書架やカウンターに季節の花を設置。</li> <li>・スクリーン、スピーカーなど、講演会にも利用できる設備を設置。</li> </ul> 	 
医療相談	他部門と連携して相談に応じている。	
その他	新聞や雑誌などをチェックして最新の医療情報などを掲示板に掲示している。	

## 2. 質問と回答

「資料配架上の工夫点を教えてください。」

雑誌については雑誌書架に配架している。

持ち帰りのできるパンフレットなどを置くための書架を設置している。

「コピー機設置上の問題点があれば教えてください。」

コピーサービスの方法について、関係部署での理解が必要になる。具体的には、著作権のこと、有料の是非、コインベンダー設置についてなどがあげられる。

「コピー機設置について著作権法対策を検討されましたか？」

大学附属病院に設置された図書室であり、大学図書館の司書が居ることで大学図書館の分室的機能を持つとみなし著作権法に対処している。室内に著作権法の注意事項を掲示している。

「公共図書館との連携はされていますか？または検討中ですか？」

現在、表立った連携はないが、公共図書館から紹介された利用者が来館することがある。

「管理用カウンター（司書スペース）にあると必要な備品や便利グッズはありますか？」

図書館システム一式。大学図書館のデータベースに入力できる。

利用者にとって便利なグッズ。例えば、老眼鏡、拡大鏡など。

患者図書館の近くに倉庫があるとよい。現在、パンフレットの在庫などの置き場に困っている。

「パンフレットの収集方法について、MR寄贈以外の方法があれば教えてください。」

院内発行のパンフレット。

(例：薬剤部発行の「おくすりの知恵袋」)

学会発行のパンフレット。

(例：日本呼吸器学会発行の「タバコについて考えてみませんか?」)

学内の連携部署から配置依頼されたもの。

(例：がん対策情報センター発行の「がん情報小冊子」)

持ち込まれた小冊子。

(例：「ロハス・メディカル」)

学内の医師に呼び掛けたり、関連学会に直接確認したりして、パンフレットの情報を集める。また、持ち込まれた小冊子は運営委員会で検討し、了解のもとに置く。

「レファレンス上の問題点があれば教えてください。」

質問者のプライバシーに配慮しつつ、本人が調べたいことは何か、求めるものは何かを把握するのが難しい。司書は医療についての判断を下す立場にはないので、質問内容によっては看護師にボタンタッチする、または該当書を紹介するなどの対応をする。

医療上の判断には、必ず「主治医にお尋ねください」と質問者に付言する。

からだ情報館担当者司書が時に応じて質問者の代わりに検索し、資料を特定し、大学図書館の図書を開覧してもらうこともある。

質問にくる患者さんに対しては、次の2点をお願いしている。

- ・主治医と話す時は箇条書きにして質問する。
- ・主治医に言われたことをメモしておく。

「患者対応で工夫されている点や気づいた点を教えてください。」

話を聞くことを大切にしている。

からだ情報館担当者（司書／看護師／ボランティア）それぞれの特性を生かして対応する。

患者の知りたい内容のベスト3は、検査・くすり・食事療法である。

「患者図書館の効果的なPR方法を教えてください。」

患者向け講演会を企画する。定期的に当院医師によるビデオ講演会を開催している。

院内の各種会議に出席、報告を行い、当館の利用をPRする。その際、AV資料を利用し視覚的に訴えかけている。

地域の広報などにお知らせを掲載する。時々、講演会の開催通知を掲載している。

「資料などの装備について工夫されている点を教えてください。」

本にはブッカーをかけて保護する。

本やパンフレットの分類表示をわかりやすくする。

「患者図書館を設置する前と後とで何が変わりましたか？良い点と悪い点を教えてください。」

<良い点>

誰でも入館して、気軽に資料を読むことができ、インターネットでの検索もできる。

診療や療養に対する心配事や不安に対応する窓口となり、病院内の“有益な居場所”となっている。

医療職と患者間のコミュニケーションに役立っている。例えば、医師から患者に対して資料閲覧のアドバイスがある。

患者が病気への理解を深めることは、治療に対しても有効で、患者が納得して治療を受ける一助となる。

外来での患者サービスの可能性を開拓したことになる。さらに、院内の各部署との連携がスムーズになれば、患者さんへのサービス度が向上する。

大学図書館にとっても、新しい職域を開拓することになり、大学図書館の活性化につながる。

また、病院についての理解が進むことで、病院側スタッフと大学職員の間で相互理解が深まる。

からだ情報館のあり方は、医学系図書館の市民・地域社会への一つの公開方法を提示している。

<悪い点>

病院側担当者の安定確保が難しい。

「所蔵内容は公開されていますか？」

公開している。ただし、パンフレット類はしていない。東京女子医科大学図書館のOPAC (<http://www.twmu.ac.jp/opac/index2.html>) で、所属キャンパスと配架場所を「からだ情報館」にすると見ることができ、ファイル出力もできる。

3. 見学者感想

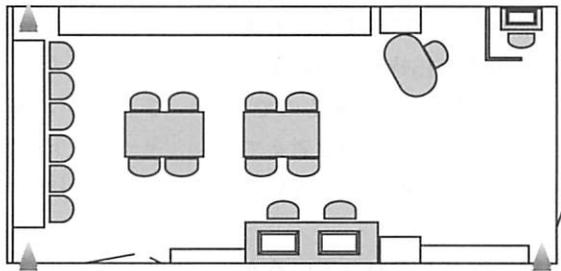
医学関係書籍だけでなく、医療用パンフレットや患者会資料など通常では入手しにくい資料が充実していた。これらは病気に悩む患者さんが知りたい情報が載っていると思う。

配付資料が多いため、このようなサービスを行う場合には別室に倉庫が必要だと感じた。

V. 聖路加国際病院

1. 基本情報

施設名	聖路加国際病院
患者図書室名	さわやか学習センター
所在地	東京都中央区明石町9-1
ウェブサイト	あり <a href="http://www.luke.or.jp/aboutluke/sawayaka.html">http://www.luke.or.jp/aboutluke/sawayaka.html</a>
型式	独立型
開館時間	平日 9:00~17:00
スタッフ	常時1人常駐（ボランティア10人、看護師1人、病院図書館司書1人が交替）。運営は職員から成るサービス向上委員会。
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者サービスの一環として、また、患者図書室としては1999年とかなり早期に開設。</li> <li>・図書の分類に「日野原重明著書・関連書」があり、独立した書架があるなど、さわやか学習センターの運営にも積極的という理事長日野原重明氏の存在が感じられる。</li> <li>・図書は医学・医療情報に特化、病院図書館の司書による選書は安定感を感じさせる。</li> <li>・アンケートや利用統計を細かく取り、運営に生かそうという姿勢をもっている。</li> </ul>

資料種別	一般医学書 688冊	ビデオ 70本	DVD 2枚	雑誌 10種類
貸出可否	入院患者は3日・外来患者は当日16:45まで○			
分類方法	当病院の診療科に即して、おおむね疾患の部位別に分類。医学的書籍も患者・介護体験記も区別しない。また出版年をラベルに表示。			
選書基準	専門医と連絡を取り、病院図書館司書が責任を持って選書。			
インターネット	端末2台			
複写機	あり	10円/枚	セルフサービス	コイン式
プリンター	あり	10円/枚		
F A X	あり	50円/枚	書籍や文献の送信目的ではなく、処方箋を調剤薬局へ事前送信するなど入院中の方が送信するためのもの。受信は受け付けていない。	
視聴覚設備	あり	ビデオコーナー (VHS, DVD)		
感染対策	なし			
レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さわやか学習センターは2階、エスカレータのそばにあり、行きやすい。専用の部屋で、広さは45m<sup>2</sup>。壁面の一つは鏡張りで狭く感じさせないようにしている。</li> <li>・ 医療相談室と連携しているが、距離的には少し離れている。</li> <li>・ 大きな書架が壁の一面にあり、蔵書のほとんどはそこに配架。部屋の中央に座席が8席ある閲覧用のテーブルがあり、奥にカウンターがある。</li> </ul> 			
				
医療相談	1階に総合医療相談室があり、そちらで行っている。			

## 2. 質問と回答

「一日の利用者数はどれくらいですか？」

25～60人、平均40人前後。当初の開館時間は9時～15時だったが、9時～17時に延長した。

「さわやか学習センター」という名称の由来を教えてください。」

日野原理事長が命名した。

「設置の経緯を教えてください。」

インフォームドコンセントやカルテ開示など、医療もサービス業と言われはじめ、患者サービスとして学習する場を設けようと、1997年にプロジェクトを発足、1999年11月に開室。

「設置に際して、障害になったことはありますか？」

初めての試みで、知識がない。何から始めるか、どんな図書を選ぶべきか、設置している病院を見学したり話を聞いたりした。

「スタッフの人数、資格、待遇について教えてください。」

ボランティア10人が9時から15時まで、看護師1人と病院図書館司書1人が15時から17時まで交替で常駐。院内に医療相談窓口があるので、専門の看護師を常駐させる必要はないと考えている。専任の司書や看護師が常駐していないことでクレームが出たことはない。

「選書方針と、選書に誰がかかわっているか教えてください。」

病院図書館司書が責任を持って選書している。購入前には医師にチェックしてもらう。

「寄贈図書に対してどのようなスタンスをとっていますか？」

病院図書館司書を通す。院内の医師が執筆している図書は寄贈してもらう。

「医学書と闘病記を区別しないことの長所と短所を教えてください。」

あくまで提供する側の印象ではあるが、短所は感じたことがない。同じ患者さんであっても求める情報は時と場合で変わるが、病名をキーワードにして探すという行為はほぼ一定している。病名ごとに、医学的情報も同病者の体験情

報も一カ所に配架してあれば、利用者はその時々に必要な情報を見つけやすいと思う。貸出状況でみると、体験記のほうが専門書よりも利用が多い。

「利用者に対してどうPRしていますか？」

そもそも院内の職員が認知していない。さわやか学習センターのポスター写真を職員に募集するなど、職員にもPRしている。院外の方に対しては、院内へのポスター掲示、病室備え付けの入院ご案内ファイルで紹介している。また、病院webサイトに学習センターの案内や所蔵リストを掲載している。

「困ったり、悩んだりしていることはありますか？」

部屋が狭いこと。ビデオやキーボードなどは読書の妨げになるので、別室にすべきだと考える。また、声が響くため相談を受け付けにくい。医療相談室が隣にあればいい。

## 3. 見学者感想

見学したときは看護師さんが応対をして下さったが、室内に設置しているパソコンのキーボードの音が利用者の邪魔になっていないか気にかけておられ、利用者のことを本当に思いやっている様子が印象に残った。患者図書館としては小さいが、よい図書が選ばれていて、限られた環境の中で最良のものをつくられていると感じた。

VI. 東京都立中央図書館

1. 基本情報

施設名	東京都立中央図書館	
患者図書室名	健康・医療情報サービス(東京都立中央図書館内の重点的情報サービスコーナーの一つ)	
所在地	東京都港区南麻布5-7-13	
ウェブサイト	あり	<a href="http://www.library.metro.tokyo.jp/1n/index.html">http://www.library.metro.tokyo.jp/1n/index.html</a>
型式	公開型	公立図書館内
開館時間	平日 10:00~21:00 / 土・日・祝・休日 10:00~17:30	
スタッフ	司書4人(健康・医療情報サービスの担当者)	
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的情報サービスコーナーの一つとして健康・医療情報サービスを行っている。</li> <li>・記録や経過を知るだけでなく、癒し、勇気、励ましを与え、生きる活力や病気を克服するエネルギーを与える資料群である闘病記文庫を設置している。</li> <li>・闘病記文庫は1,500冊という大部な文庫で、263種の病名から探すことができる。</li> <li>・闘病記は実体験に基づいているため、迫力や真実味があると考えている。</li> <li>・資料名から利用者が必要とする闘病記を探すことは大変困難だが、都立中央図書館のデータベースには、「闘病記」という件名と病名の件名が入力されているため探しやすい。</li> <li>・調査研究図書館のため、すべての資料の個人貸出サービスをしていない。</li> <li>・幅広いサービス対象とサービス内容(あらゆる分野)を提供しており、健康・医療情報はその一つに含まれている。</li> </ul>	
資料種別	一般医学書 約46,000冊 (内開架図書 約10,000冊)	闘病記 1,500冊
貸出可否	×	×
分類方法	NDC	病気ごと(その中はNDC順)
選書基準	<p>健康・医療情報サービスの資料についても、基本的に「都立図書館資料収集方針」に基づき選書を行っている。</p> <p>この他に、病院図書室研究会のまとめた「病院図書室デスクマニュアル」や「患者医療図書サービス」で紹介している参考資料リスト等も参考にしている。</p> <p>スタッフは、医学図書館や医療情報の研修会等への参加やOJTにより研鑽を積んでおり、それらで得た情報も選書に役立てている。</p> <p>寄贈資料は、「東京都立図書館寄贈資料取扱方針」に従い、受入資料を選定している。</p>	
インターネット	端末4台	利用目的を限定した端末を設置している。医中誌やJDreamⅡ等の検索講座を随時行っている。
複写機	あり	25円/枚(コイン式コピーは10円/枚)
プリンター	あり	許諾を得たサイト、オンラインデータベースについては、プリントアウト可能。25円/枚。
視聴覚設備	あり	5階 音声・映像資料室

<p>感 染 対 策</p>	<p>なし</p> <p>誰でもいつでも自由に入館できる施設のため、特に行っていない。 風邪のはやる季節などにはマスクをしてもらうなど、個人で防衛してもらう程度。</p>
<p>レイアウト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 闘病記文庫は、利用者ができるだけ周りを気にせず自由に気軽に読めるよう、プライバシーを尊重したレイアウト、配置を心がける。1階の重点的情報サービスコーナー（法律、ビジネス、健康・医療情報）の一番奥に設置している。</li> <li>・ 病気について調査するのに役立つ健康・医療情報コーナーとして、健康・医療情報図書約4万6千冊を、闘病記文庫の近くに配架している。医療に関するデータベースも近くに設置している。</li> <li>・ カウンターでのレファレンスの声が他の利用者に聞こえないよう、閲覧席との距離を考慮している。</li> <li>・ 床は絨毯敷きの方が、声がひびきにくい。</li> <li>・ 2009年1月4日(日)にリニューアル開館。 法律、ビジネス、健康・医療の情報コーナーを1階に集中配置し、新たに「都市・東京」情報サービスがスタート。 レファレンス・図書の館内貸出・複写サービスの窓口が、1階に集中し、スムーズな手続きが可能に。 開架図書（健康・医療情報以外も含む）が25万冊から35万冊に増加。 インターネット用パソコンが増加。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>医 療 相 談</p>	<p>なし（ただし東京都看護協会派遣看護師による健康相談を実施）</p>
<p>そ の 他</p>	<p>レファレンス事例データベースを作成。 闘病記文庫の横に大学ノートを設置し、利用者は自由に書き込みできる。 医療関係機関と連携して相談会や講演会も行っている。 職員が読んだ上で、おすすめの書籍をテーマ別にまとめたブックリストを作成し、配布している。</p>

## 2. 質問と回答

【資料配架上の工夫点を教えてください。】

病名から資料が探せるように、病名ごとに見出しをつけている。

【必要な備品や便利グッズはありますか？】

闘病記文庫リストとして、

①請求記号順リスト

②50音順リスト

③病名分類順リスト

を作成し、つり下げ式リーフレットとして書架に置いたり、レファレンスカウンター等に置き、読みたい闘病記がすぐに見つけられるようにしている。

印刷物や掲示物はピンクで統一し、やさしいイメージにしている。

【医学情報についてのレファレンスはどこまで対応していますか？】

図書館のサービス対応範囲（下記）を利用者に明示している。

- 1 サービスは資料や情報の提供のみを行う。医療上のアドバイスは行わない。
- 2 診断、治療、薬についての判断は都立図書館では行わない。
- 3 都立図書館はこのサービスを利用される方のプライバシーを守ります。

都立図書館が所蔵していない場合は、所蔵している図書館を探したり、資料の取り寄せなど他の分野のレファレンスと同様に対応している。

【医学情報についてのレファレンス上の問題点があれば教えてください。】

特に問題はないが、偏った資料情報を提供せず、まんべんなく調査して、この資料ではこのように、他の資料ではこのように記載されると、事実を伝えるよう注意している。

毎日、多くの質問が寄せられている。電話、電子メール、FAX、口頭など、あらゆる方法での問い合わせがあり、それらの対応に忙しい。

【医療情報サービス担当者に必要な能力と

は、どういうものだと思いますか？】

資質としては、誠実さ、親切さ、安心して話せる雰囲気を作り、利用者が何を聞きたいのかをきちんとレファレンスインタビューすることが大切である。

例えば話す時は声を静め、利用者の情報は守られていることを利用者に伝えること。

医療のレファレンサーとしてのスキルアップも大切で、医療に関する知識の蓄積、日々の研鑽、外部研修への参加など、常に情報収集をするように心がけている。また外部データベースの提供方法やレファレンス事例を蓄積し、スタッフ間で研修をしている。患者図書館協議会の研修会や医学図書館協会の基礎研修会などにも参加し、医学の基礎から学んでいる。テキストには「からだの地図帳」を用い、生理学なども学んでいる。

【医学図書館や病院図書館との連携はされていますか？または検討中ですか？】

都立図書館が実施する健康・医療情報のレファレンス研修会への参加を、健康福祉学部などがある首都大学東京に呼び掛けている。

また、日本医学図書館協会や日本病院ライブラリー協会、患者図書館研究会などの主催する研修会などに参加している。

見学などにも対応している。平成19年度は病院図書館からの見学が多数あった。

【インターネット環境を提供していますか？その場合運用ルールなどはありますか（利用基準・時間制限・ウイルス対策など）？】

アンチウイルスソフトとフィルタリングソフトを使用している。フィルタリングソフトの範囲内であれば閲覧に制限をつけていない。

利用時間は1人30分で、申込制である。申込者には利用するためのカードを渡している。次に待っている利用者がいない時は、続けて利用できる。1人1日3回までの利用が可能。また、無線LANも提供している。

【インターネット利用についてトラブルはありますか？その場合どのように対処されていますか？】

利用申込の時に、利用方法などを説明しているので、特にトラブルはない。

外国の方が利用された時に、多少トラブルが発生したが、きちんと説明すると納得された。

【資料などの装備について工夫されている点を教えてください。】

闘病記の本のカバーには特に多くの情報があるので、カバーや帯を付けたままの状態を提供している。

【闘病記文庫を設置する前と後とで何が変わりましたか？良い点と悪い点を教えてください。】

近隣の利用者のみならず、日本全国から闘病記文庫への問い合わせや寄贈の希望やレファレンスが来るようになった。

環境を整えたことにより、以前よりも気軽に自由に闘病記や健康・医療情報を閲覧したり、レファレンスできたりするようになった。例えば、闘病記はどこにありますか？という声が多くなった。以前よりも健康・医療情報に対する敷居が低くなったように感じる。

悪い点はない。

【医療情報サービスを始めたきっかけは何ですか？】

健康で豊かな暮らしを求めるといふ、利用者の健康・医療情報へのニーズの高まりに応える形で平成16年に開始した。開始当初から次のサービスを展開するなど、関係機関と連携し、サービスの充実を図っている。

- ①健康・医療情報コーナーの設置
- ②闘病記文庫の設置
- ③ニーズの高いテーマでの講演会の開催
- ④健康相談会の開催
- ⑤医学関係のオンラインデータベースの導入と検索セミナーの開催

### 3. 見学者感想

公共図書館のサービス対象とサービス内容は幅広く、医療情報はその一つにすぎない。病院図書館とは違うところがそこにある。しかし、担当者はきちんと学んだ上で医療情報の提供をしている。また著作権法もしっかり理解している。見習うべき姿勢だと思った。

(見学時は工事中のため臨時閲覧室にて仮設展示)

## Ⅶ. 参考情報

### 【図書情報】

- 1) 野添篤毅監訳. 公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド (JLA図書館実践シリーズ6). 東京: 日本図書館協会; 2007.
- 2) 健康情報棚プロジェクト編. からだと病気の情報をさがす・届ける (UDライブラリー). 東京: 読書工房; 2005.
- 3) 奈良岡功, 山室真知子, 酒井由紀子. 健康・医学情報を市民へ. 東京: 日本医学図書館協会; 2004.
- 4) 患者図書マニュアル編集委員会. 患者医療図書サービス-医療情報を中心とした患者図書室 (デスクマニュアルシリーズ). 東京: 病院図書室研究会; 2004.
- 5) 菊池 佑. 病院患者図書館 患者・市民に教育・文化・医療情報を提供. 東京: 出版ニュース社; 2002.
- 6) 日本図書館協会障害者サービス委員会訳. IFLA 病院患者図書館ガイドライン2000. 東京: 日本図書館協会; 2001.
- 7) 全国患者図書サービス連絡会. 患者さんへの図書サービスハンドブック (情報バリアフリー叢書). 東京: 大活字; 2001.

- 8) 菊池 佑、菅原 勲. 患者と図書館. 仙台：明窓社（現明窓出版）；1983.

#### 【ウェブサイト上で公開されている報告書】

- 1) 2007年度病院患者図書館設置状況調査—100床以上の病院における読書環境. [引用日 2008-8-6]  
<http://ir.u-gakugei.ac.jp/bitstream/2309/87767/1/etopiamaedahospital.pdf>
- 2) 看護師の医療情報ニーズと医学・看護図書館および患者図書室の役割と機能についての実態調査等報告書2007. [引用日 2008-8-6]  
<http://ojs.info.gbcc.osaka-cu.ac.jp/JI/viewarticle.php?id=71>
- 3) 患者図書室・患者情報室の資料の選定に関する研究. [引用日 2008-8-6]  
<http://www.e7station.com/html/library/report2007.pdf>
- 4) 患者の自己学習環境の整備状況に関する研究報告書2006. [引用日 2008-8-6]  
<http://www.e7station.com/html/library/report2006.pdf>
- 5) 公開シンポジウム報告書 これからの医療情報を考える！—患者図書室／患者情報室のさらなる発展をめざして. [引用日 2008-8-6]  
<http://ojs.info.gbcc.osaka-cu.ac.jp/JI/include/getdoc.php?id=144&article=42&mode=pdf>

#### 【関連団体およびそのウェブサイト】

- 1) NPO医療の質に関する研究会  
<http://www.npo-shitsuken.org/general/intro/organization.html>
- 2) 健康情報棚プロジェクトHP 闘病記ライブラリー  
<http://toubyoki.info/>
- 3) 全国患者図書サービス連絡会  
<http://kanjatoshho.jp/>
- 4) 日本病院患者図書館協会  
<http://www.jhpla.jp/>
- 5) 日本病院ライブラリー協会 知ることから始めよう患者図書室  
<http://jhla.org/kanjya/>
- 6) みんなの医療情報AからZまでプロジェクト  
<http://www.kanjatoshshitsu.org/>

#### 【会員（元会員も含む）の論文】

- 1) 戸津崎茂雄, 山室真知子：患者図書室の現況と将来展望—患者が納得して治療が受けられるために. 病院. 2008 ; 67(5) : 406-9.
- 2) 橋田圭介：高知医療センターなるほどライブラリーについて. 全国患者図書サービス連絡会会報. 2008 ; 14(2-3) : 9-14.
- 3) 松本純子：病院における仮想患者図書館をさぐる 事例を参考に. 病院図書館. 2007 ; 27(2) : 67-71.
- 4) 山室真知子：医学・医療情報を必要とする人々へのサービス 京都南病院図書室一般公開での利用状況. 医学図書館. 2007 ; 54(2) : 150-4.
- 5) 山室真知子：魅力ある図書館づくり 病院図書室サービスへの期待. 看護と情報. 2007 ; 14 : 62-4.

- 6) 小杉光世：病院とっておきのもの「地域に開かれるオアシス文庫」患者図書室への取り組み。全国自治体病院協議会雑誌。2006 ; 45(3) : 8-11.
- 7) 宮田由紀：患者図書サービスと資金作り 助成金の活用。全国患者図書サービス連絡会会報。2006 ; 13(1) : 15-20.
- 8) 山室真知子：病院図書室における医学情報をめぐる図書館間の連携。LISM (リスン)。2006 ; (130) : 1-4.
- 9) 荒木久美子：「さんぽ図書館」オープン。富山市立富山市民病院研究業績集。2004 ; 27 : 25.
- 10) 前田元也：医学図書館から医療図書館へ—患者の医療を受ける権利からのアプローチ。病院図書館。2003 ; 23(2) : 43-7.
- 11) 山室真知子：全国患者図書サービス連絡会。医学図書館。2004 ; 51(4) : 349-50.
- 12) 山室真知子：病院図書室と患者図書室の現状。医学図書館。2004 ; 51(2) : 113-5.
- 13) 山室真知子, 戸津崎茂雄：患者図書室の取り組みと経営への効果。月刊MMRC (日本医業経営コンサルタント協会会誌)。2004 ; 15(10) : 14-7.
- 14) 山室真知子：患者さんと地域住民への病院図書室サービス。病院。2004 ; 63(11) : 919-22.
- 15) 山室真知子：患者図書サービスの概要と現状。みんなの図書館。2004 ; 329 : 9-42.
- 16) 藤井梨枝：患者さんへの医学・医療情報公開の実践 患者図書室開始から3年を経て。病院図書館。2003 ; 23(4) : 163-5.
- 17) 山室真知子。第14章 病院図書室における患者サービス。病院図書室デスクマニュアル。東京：病院図書室研究会 ; 2001。138-44.
- 18) 嶋大二郎：患者図書サービス・病院図書館・司書の位置 医療・医学情報提供という面から見て。病院図書館。2001 ; 21(1) : 15-8.
- 19) 山室真知子：患者と地域の人々への医学情報提供—病院図書室の役割。月刊ナースマネジャー。2001 ; 3(9) : 83-6.
- 20) 山室真知子：医学情報の患者へのバリアフリー。情報の科学と技術。2000 ; 50(3) : 137-42.
- 21) 山室真知子：利用者のプライバシー保護を検証する。図書館雑誌。1999 ; 93(11) : 909.
- 22) 山室真知子：病院図書室における患者サービス。日本病院会雑誌。1999 ; 46(12) : 1979-85.
- 23) 山室真知子：患者・地域住民への医学専門情報の提供 京都南病院における医学専門書のサービス。薬学図書館。1999 ; 44(3) : 235-40.
- 24) 木下久美子：当院における患者への図書サービス。日赤ライブラリアンニュース。1998 ; 5(2) : 37-8.
- 25) 山室真知子：患者・一般住民への医学情報サービス 医学専門書の提供から患者心理のアフターケアを考えて。医学図書館。1998 ; 45(1) : 51-6.
- 26) 山室真知子：患者に対する医療情報の提供を考える・司書の立場から。日本病院会雑誌。1998。45(3) ; 433-436.
- 27) 山室真知子：病院管理フォーラム 広がる病院患者用図書館 病院の地域医療活動と図書館サービス。病院。1997 ; 56(7) : 640-1.
- 28) 山室真知子：患者と地域住民への医学専門図書の提供 各科テキストブック。辞書・体系類一。ほすびたる・らいぶらりあん。1997 ; 22(3) : 113.
- 29) 首藤佳子：文献からみる患者への情報提供サービス。病院図書館。1996 ; 16(2) : 47-52.
- 30) 山室真知子：患者さんと医学・医療情報—その提供の可能性を考える。病院図書館。1996 ; 16(2) : 57-60.

- 31) 山室真知子：患者図書サービスからみた健康・医療情報。医学図書館。1995；42(1)：55-8.
- 32) 山室真知子：病院における患者図書サービス。病院。1995；54(5)：498-9.
- 33) 山室真知子，木下久美子：患者図書室におけるMRSA感染予防の試み。病院図書室。1994；14(1)：25-7.
- 34) 山室真知子：病院図書室における患者サービス その専門性を探る。病院図書室。1994；14(4)：159-62.
- 35) 山室真知子：患者図書サービスとMRSA院内感染。ほすびたるらいぶらりあん。1993；18(3)：70.
- 36) 山室真知子：地域の人々への図書サービス。医療経営管理専門誌MRM。1990；38：37-9.
- 37) 山室真知子：京都南病院における患者教育と医学情報サービス。医学図書館。1982；29(3)：222-6.
- 38) 山室真知子：公共図書館に期待する入院患者への図書サービス。図書館界。1982；34(1)：24-7.
- 39) 山室真知子：京都南病院図書室の患者サービス。病院。1978；37(12)：996-8.
- 40) 山室真知子：病院図書室の患者サービス。図書館雑誌。1974；68(2)：58-60.

#### VIII おわりに

患者図書館と一口に言っても設置の思惑が異なり、今回見学させていただいた5つの患者図書館だけでも、病院図書館よりはるかに多様であると感じた。しかし、どこの患者図書館にも共通していたものもある。図書館員を含むそこにかかわる人たちの熱意である。患者図書館のような素朴な図書館を見ていると、図書館にとっていちばん重要なのはやはり人なのだということが、改めてよくわかる。今回の取材が、優れた患者図書館がひとつでも増えるきっかけになればと願っている。

訪問させていただいた患者図書館のみなさま、私たちが温かく迎えてくださいましたことを心より感謝いたします。

#### 参考文献

- 1) 日本病院ライブラリー協会。患者図書室の紹介。[引用日 2008-10-16]  
<http://jhla.org/kanjya/kanja-1.php>  
 (文責：増田 徹、井上智奈美、寺澤裕子、若杉亜矢)